

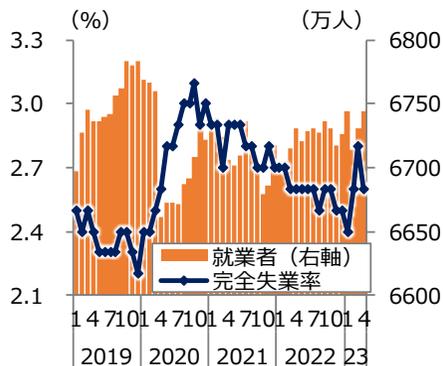
日本

雇用関連指標 (2023年4月)

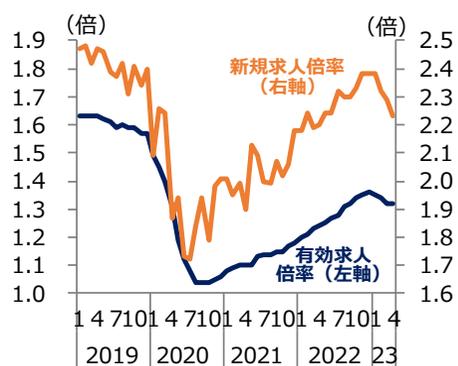
雇用環境は総じて堅調を維持も、一部産業では労働需要に陰り

政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

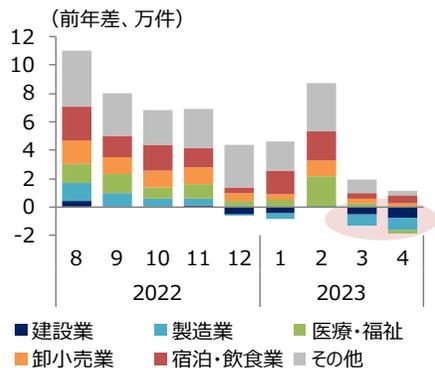
1 完全失業率・就業者数

注：季節調整値。
出所：総務省「労働力調査」より三菱総合研究所作成

2 求人倍率

注：季節調整値。
出所：厚生労働省「一般職業紹介」より三菱総合研究所作成

3 産業別新規求人件数



出所：厚生労働省「一般職業紹介」より三菱総合研究所作成

4 就業者数・経済活動 (宿泊・飲食)

注：後方12か月移動平均。直近は、活動指数が23年3月、就業者数が23年4月。破線は19年平均の就業者数。
出所：総務省「労働力調査」、経済産業省「第三次活動指数」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

労働力調査 (2023年4月) の結果

- 4月の完全失業率 (季調値) は2.6% (3月2.8%) と、3カ月ぶりに前月から改善した (図表1)。
- 完全失業者は3カ月ぶりに前月から減少 (前月差▲15万人)、就業者数は6,744万人 (同+13万人) と、2カ月連続で増加し、19年並みで推移している。

一般職業紹介状況 (2023年4月) の結果

- 4月の有効求人倍率は1.32倍 (3月1.32倍) と、前月から横ばいとなった (図表2)。求人数・求職者数ともに前月から減少した。
- 有効求人倍率に先行する傾向がある新規求人倍率は2.23倍と、1月 (2.38倍) をピークに低下傾向が続いている。
- 新規求人件数を産業別に見ると (図表3)、新型コロナ5類移行による需要回復期待から、宿泊業・飲食業では増加している (前年比+8.2%) 一方で、製造業 (同▲9.3%) や建設業 (同▲9.6%) では減少している。

基調判断と今後の流れ

- 雇用環境は堅調さを維持している。
- 先行きは、経済活動正常化・景気回復を背景に、雇用環境は堅調に推移すると見込む。特に、宿泊・飲食業の就業者数は回復余地を残しており、事業活動の拡大が雇用増につながりやすい状況にある (図表4)。
- 一方で、製造業などでは、労働需要に陰りが見られる。4月の地域経済報告では、海外経済の減速や突発的な減産リスクから、新規採用を見送る動きあることが指摘されている。
- 製造業でも総じてみれば人手不足感は強く、大幅な人員削減は考えにくいものの、海外経済や半導体サイクルの持ち直しには時間を要すると見られ、当面の間は労働需要が抑制された状況が続く可能性がある。